

ペンネーム	juuza
-------	-------

【エピソードのタイトル】

『マラソンって、凄い！』

マラソンって、素晴らしいですね！応援からランナーに変わって実感です。

(2011 下関海響マラソンの回顧録です。)

※その前に

応援に来てくれる人達に見付けて貰う為にちょっとだけ仮装をしてました。(私が応援に行った時、同級生ランナーを見逃した経験に基いて。)

人気アニメの主人公のトレードマークの「麦わら帽子」とそのTシャツで。

その1.

スタート直後と言いますか、唐戸の所で、足が痛くなり、

「一年練習して、此处で終わるのか!?!」と身体と相談してた時、沿道から声援が聞こえました。

主人公の名前「ルフィー、ルフィー♪」と。

始めは、まさか自分の事と思わなかったので躊躇しましたが、子供達が手を振ってくれていたの、

声援には、「答えなくっちゃ」と思い手を振り帰していると、

直ぐに、元気になり、痛みも和らいで来て、何とか走り続けられる様になりました。

※そう言えば、「仲間が言ってたなあ～」と思い出しました。

「マラソン自体は辛いことが多いし、練習は大変だったと思うけど。」

「今日は出来るだけ楽しんで走って！」

「ランナー同士は、励まし、励まされて頑張るって走ろう。」

「なるほど、こう言う事なんだ！」

「サポーターの応援、声援が力になり、後押ししてくれるって言うのは、この事なんだ！」

特に子供達には、「感謝」です。

その2.

その1. を実感する事が出来ました。

医療センターの折り返しの地点で沿道の子供達に「ルフィー、ルフィー」と声を掛けて貰いました♪

丁度、沿道沿いを走っていたので、「ハイ・タッチ♪」をしました、出来ました♪

嬉しかったです♪楽しかったです♪感動でした！

その3.

感動と言えば、10km過ぎの給水所付近。ボランティアの方がランナーと並走してました。

えっ、思ったのですが、直ぐに納得しました。

その方は、ランナーが立ち止まらなくて良いように並走しながら、雨具を受け取ってました。

雨もほとんど降り止んでたので、「何処で脱ごうか」と各ランナーは、思ってた筈です。

私も脱ぐタイミングを計ってました。

その方に渡せば、立ち止まらなくて良い！脱ぐ場所も考えなくて良いと思い、私も渡しました、いえ、受け取っていただきました。見た所、年配の方だったので、大変だったと思います。

※そう言えば、「仲間が言ってたなあ～」とまた思い出しました。

「此処、下関海響マラソンの良い所は、ボランティアの方が『熱い♪』、エイドもしっかりしてるし、環境はピカー！」

「だから、走り易い」と。

それにしても此処までするの？と思いました！

しかし、真似しようと思っても、真似出来ない事とじゃあないでしょうか！

ボランティアの『熱い気持ちと行動』に「感謝」です。

その4.

折り返しての唐戸の交差点付近の事です。

大勢の方と一緒に応援していた「イケメン」の外国人のお兄さん！

熱心に声援をして貰ったので、「ハイ・タッチ♪」。

でも・・・

お兄さんとの「ハイ・タッチ♪」パワーが有り過ぎて、“痛かった^^;”ですよ♪

次回は、優しくお願いします m(_)m

その5.

その後、直ぐに同級生の大応援団と遭遇♪

一瞬、たじろぐ程の大声援～♪

「必ず戻って来るから、」と、声を掛けて暫しの別れです。

雨の中、朝早くから来てくれて、移動しての応援、「感謝」の言葉しか浮かびません。

その6.

その後スタート地点に戻り、家族と親戚に遭遇♪

ちなみに親戚は、Fun ランに参加してました。

そして第6給水所で、大勢の子供達に会いました。

30人程居たんじゃあないでしょうか!?

「ゴム・ゴム・ノー」って言ったら、みんな用意してくれて、子供達全員と「ハイ・タッチ♪」。

“ノリ”の分かる、優しい子達でした♪

その第6給水所に居たボランティアの方も優しかったです。

「飴が有るよ、これを食べて元気出してね。」と声を掛けてくれました。

「他のランナーと分けるから、多目に貰います」と声を掛け、一掴みして走っていると、立ち止まっている若いお兄さんに会い、

「この飴を食べて元気出すように、ね♪」と渡すと急に立ち上がり、その後、一緒に走りました。

※着ぐるみ着た方、歩いてる方にも渡しました。

その7.

彦島のトンネルの中の出来事ですが、

早くも先頭のランナーが来たのでしょう、

大きな声で、「行け～、頑張れ～」そして拍手の嵐です。

私の様なランナーはそれ程余裕は無い筈なのですが、各自精一杯の応援をしてました。

これが、仲間の言っていた、「励まし、励まされる」って事と、実感しました。

その 8.

彦島大橋の登りです。

車でコースの下見をしてましたが、流石に厳しいですね。

ペースが落ちてきた人、歩いてる人が多く見受けられたのですが、

元気の出る「飴」は、残り少なくなっていたので、歩いてる方限定で渡しました。

その 9.

金毘羅の交差点で、驚きがありました。

女の子を連れのお母さんが、「麦わら、麦わら」と声を掛けてくれました。

「えっ、もしかして、、、。」と思い会釈をしました。

「えっ、もしかして、左手に巻いている包帯の中のこと、分かってるんだ」

※(怪我をして包帯をしてるんじゃないかとなくて、「仲間」という意味の「x」の文字を包帯の下に書いていたのです。)

※人気アニメの有名な別れのシーンの一部を再現する為に書いてました。

※それは、東北の方々と距離は離れてますが、「仲間」なんだと言う事をアピールしたかったのです。(ゴール出来たら)

応援に来てくれている家族や応援団のみんなは、この事は知ってましたが、まさか、まさかの出来事に驚愕でした。

その 10.

第 10 給水所、此处でも子供達と「ハイ・タッチ♪」

声を掛けて貰えるだけで有り難いですし、「ハイ・タッチ♪」は、元気が出ます。

元気を貰って私自身の第一目標の 30km に望めます。

そして、去年投稿させて貰った「27km 地点」に来ました。

私なりに探したのですが、走っていると探すの難しいですね。

残念ですが、目的の老夫婦を探し出すことは、出来ませんでした。

気を取り直して長州出島に向かってると、その入り口で友人の声援が聞こえて来ました。

応援グッズを身に纏い、行きも帰りも精一杯の声で応援して貰いました。

本当に有り難いですし、「感謝」です。

その 11.

流石に 30km を超えて、走るのは、辛いですね。

足はフラフラ、腰も痛くなり、身体から悲鳴が聞こえて来るようになり、辛い時間帯に入りましたが、

第 12 給水所でも声援を貰い何とか走り続けられました。

※実は、私達同級生ランナーは、各自携帯電話を持って走ってました。

それは、応援に来てくれる人達に、だれがどの辺りを走っているのか、知って貰う為でした。

その為に各自 5km 毎にメールを送信してました。

その 12.

35km 地点が近づいて来たので、送信の用意をする為に携帯を取り出すと、

応援に来ることが出来なかった友人から、メールが届いてました。

「あんた、あれだけ頑張ってるから、ゴール出来るでしょ♪」
「先に“おめでとう”を言っておくね♪」
と、メールが届いてました。
これには、思わずよろけてしまいました。
その後、またメールが届きました。
「二人、ゴール♪、後は、君だけだよ、頑張ってるね～」
えっ、やっぱりこれだけ差が付くのか！
ゴールで待っていてくれるみんなをかなり待たせるな、急がなくちゃと思うも
身体が、言うこと聞いてくれない、更に人生初距離の最中だったので、不安に駆られてました。

その 13.

不安に駆られつつも、第 15 給水所過ぎて、沿道の声援が聞こえて来ると、元気を取り戻せますね。
身体のあちこちで、悲鳴が上がってますが、声援して貰うと何故か身体が前へ前へと動きます、本当に不思議です。
そして、最後の給水所第 16 給水所に辿り着き、子供達と「ハイ・タッチ♪」
これで、何とかゴール出来るぞ！って言う感じが掴めました！
残り 2km になったので、私以外のランナーは、ラストスパートを掛けるのですが、
なかなかペースが上がりません。
元気を貰っていたので、気力だけは、残っていたのですが、体力の限界に来ていたので、ヨロヨロしながら走ってました。
すると沿道から、「ナイス・ラン♪」と聞こえました。
「ナイス・ラン♪」、良い響きですね。
ヨロヨロして走ってましたが、この言葉を聴いて“シャキ”として走れました♪

その 14.

後 2 つ角を曲がれば、ゴールだ！その手前に家族と同級生の応援団が待ってる。
みんなとの約束通り帰って来たと思うと、感情の高まる自分が居ました。
そして、家族と同級生の応援団を発見！
残り後、100m です。その瞬間に、「ゴール」出来ること確信しました。
何故なら、第 16 給水所を過ぎて 40km 越えを果たしても、何が起きるか分からない、
「ゴールしたい、ゴール出来れば良いな」としか、思えなかったのです。
でも、ゴール直前、大勢の仲間達の顔を見たら、「孤独からの開放」を感じました。
残り 50m、ゴール出来たら、左手に書いた「×」を上げて、みんな「仲間」なんだとアピールしたかったので、
急いで包帯を取り、左手を上げてゴールしました。
ゴールの瞬間は、言葉で表すことの出来ない“達成感”を感じました。
“完走”出来たことは、ただただ「全てに感謝」します。

その 15. (走り終わってのことになりますが、)

完走証を貰って同級生に祝福して貰ってる時に、
肩をトントンとされて振り返ると走ってる途中に話をした方が、

「声を掛けて貰って有難う御座います、お蔭様で完走出来ました」と、とても丁寧に挨拶して下さいました。

「そう言って貰えて嬉しいです。有難う御座います。」

「お互い完走出来て良かったですね。」

まさか、ゴール後に丁寧に挨拶していただけるとは、思っても無かったので、恐縮するばかりでした。そして又、肩をトントンとされて振り返ると、先ほどの方と同様に挨拶していただきました。

すると隣に居た友人が、

「おまえ何人に声を掛けたんだ？」と質問されたので、

「ランナー同士励まし合うって聞いてたし、」

「走っていると声を掛けた方が良いのか、遠慮した方が良いのか分かるから、声を掛けた方が良かった人には、声を掛けたよ。」

「だから、声を掛けて励ましたって言うより、励まし合ってたって言う方が正解と思うけど。」

「35km 過ぎまで、“飴”を持ってたから、声も掛け易かったから。」

以上が私の 2011 下関海響マラソンの回顧録です。

走り終わって感じたのは、『マラソンって、凄い！』の一言に尽きると思いました。

関係各位、主催する方々、ボランティアの方々、沿道のサポーターの皆さん、

そして大会に参加したランナーの皆さん、一人一人が『主役』と思いました。

一人一人それぞれの『ドラマ』があったと思います。

ただ一つ、たった一つ、残念だったのは、同級生ランナーがドクターストップに因って大会に参加出来なかったことです。

一生懸命練習をしているのを知ってたので、

仕方がないこととは言え、これも又、フルマラソンの宿命と思いますが、誠に残念でした。

(余談です。)

昨年の大会は、

直接触れ合うことの出来た沿道のサポーターの皆さんに「元気と勇気」を沢山頂きました。

そのお返しと言っては、失礼と思いますが、今年の大会は、「お礼と感謝」の気持ちを込めて走りたいと思います。

※(自分勝手にですが、)最後尾からスタートしたいと思います。

そこで、子供達の皆さんにお願いがあります。

今年も「魔の実の能力者」の衣装をして走ります。→→→ヒント♪(スカイピア)

多分ですが、50m～100m 離れてても、確認出来ると思います♪

もし、見付けたら、今年も応援を宜しくお願いします。「ハイ・タッチ♪」もお願いします♪

※此処まで長々と書きましたが、見ていただいた方に感謝します。

※乱文乱筆を失礼しました。

PS:ランナーの皆さんへ、

体調管理、大変だと思います。暑い夏も有りますが、元気な姿で、スタートラインに集いましょう～♪